

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 461

25年度の事業実施状況	内容	規模	事業費(千円)	
			単位	事業費(千円)
(1)主な取組	校庭芝生化	2	校	4,568
	その他()			1,037
(2)事業実績 (協働、行革の取組があれば記入)	校庭の一部芝生化を2校で実施しました。			

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	平成13年度の校庭緑化事業(芝生化・ビオトープ整備)着手以降、平成19、20年度の二次にわたる「エコスクール化検討懇談会」報告を踏まえたエコスクール化に取り組んできました。平成23年度には、小・中学校の普通教室にエアコンが設置されたこともあり、エコスクール事業の見直しを行い、平成24年度にその報告(「平成24年度 エコスクール事業検討委員会報告」)がまとまりました。
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	校庭芝生化については、保護者等から養生期間に校庭が使えないこと等に対する意見・苦情が寄せられています。 また、夏の暑さ対策として、早期に全校でエコスクール化を実現することの要望や、校庭・屋上・壁面緑化の維持管理へのサポート及び予算配分を求める要望が寄せられています。
	今後の予測	「エコスクール事業検討委員会報告」に基づき、エコスクールメニューを実施していきます。 東京芝生宣言に基づき、全校の校庭一部芝生化を目指します。
評価と課題	<p>これまでエコスクールの整備は大別すると「みどりの創出」と「建物自体の工夫」を適切に組み合わせて行ってきました。</p> <p>「エコスクール事業検討委員会報告」により、本事業は学校の緑化や環境負荷を抑制しつつ学習環境の整備を行い、学習環境が大きく改善されたと評価されています。</p> <p>今後は、「みどりの創出」は環境改善や教育効果も高く、推進していくことが求められています。</p> <p>また、「建物自体の工夫」は、エネルギー使用量を抑え、高気密・高断熱と自然通風に配慮した省エネ施設にすることが重要であると考えます。</p>	

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	○ 拡 充 ● 現状維持 ○ 縮 小 ○ その他			
		II 事業の方向性	● 手段・方法の見直し	○ 実施主体の見直し	○ 対象の見直し	
<p>「エコスクール事業検討委員会報告」に基づき、今後の事業を次のとおり実施します。</p> <p>「みどりの創出」のうち、校庭緑化については、環境改善や教育的効果も高く、また、地域コミュニティの形成に役立つことから今後も引き続き、地域・保護者の協力のもと進めていくとともに、屋上・壁面緑化、ビオトープについても環境学習の面で重要であり、施設形態を踏まえ進めていきます。</p> <p>「建物自体の工夫」については、設置されたエアコンに係る電気やガスの使用量を抑え、より効果的に活用していくため、高気密・高断熱化と自然通風に配慮した「省エネ施設」に重点を置いて、これまでのエコスクールメニューを再整理して進めます。</p> <p>特に、地中熱を使ったクールヒートレンチについては、省エネルギーの観点からは有効であるが、複雑なシステムの管理・運用にはきめ細かな対応が必要なことや費用対効果の面などから、今後、新たに設置しないこととします。</p>						

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 473

25年度の事業実施状況	(1)主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		校務システム用機器賃借、教育用機器賃借			474,986
		校務システム保守委託			54,114
		校務システム用専用ネットワーク網等通信費			11,567
		その他(図書館システム使用料、インターネット接続費 ほか)			12,742
(2)事業実績 (協働、行革の取組があれば記入)	校務システムの基幹アプリケーション「スクールオフィス」による校務処理を、全校で開始しました。また、実際の運用により、校務システムを使用した校務処理について、教員の理解と意識が高まりました。通知表の様式変更や機能カスタマイズを施し、業務に則したシステムに改良することができました。				

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	H2: 中学校11校コンピュータ教室設置 / H13: 全校でネット接続環境整備 / H17: 校務システムと図書館システムのモデル校導入 / H18: 中学校教室ネット接続回線架設 / H19: 小学校教室ネット接続回線架設・全校図書館システム導入・全校教室パソコン配備・全校教職員校務パソコン配備 / H20: 校務システムサーバを設置し校務パソコンをクライアントとしたネットワークを構築。基幹アプリケーション「スクールオフィス」による校務システムを稼動 / H24: 校務システム更新及び新学習指導要領に基づくシステム改修の実施			
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	小、中学校PTA協議会から、電子黒板などの全教室設置など、教室のICT環境の充実に関する要望が提出されています。			
	今後の予測	○ 少人数授業による教員の増加や中学における講師や補助教員などの増加など、常勤教師と同等の校務従事環境整備が必要となっており、今後の校務システムの規模拡大の必要が見込まれます。 ○ 視聴覚系コンテンツが中心となるデジタル教材の増加やICT機器を活用した授業スキルの開発により、更なる授業用ICT機器の需要が増加し、タブレットPCへの移行の進展とともにパソコンがコンピュータ教室から普通教室へと配置の場を変えていくことが見込まれます。			
評価と課題	全校で校務システムを使った時数管理や成績管理が行われ、システムによる業務処理方法の整備と標準化が必要となっています。また、利用目的拡大と制度改正にともない、システム改修の必要性が高まっています。 パソコンは常勤教員に1台、生徒4人に1台程度を行き渡らせることができました。今後は、電子黒板などのICT関連機器の拡充と、一層の利用者のスキル向上と、有用なデジタル教材の整備により、一般教科への幅広い活用に対応できるようにしていくことが課題となっています。				

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input checked="" type="radio"/> 拡 充 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 縮 小 <input type="radio"/> その他			
		II 事業の方向性	<input type="radio"/> 手段・方法の見直し	<input type="radio"/> 実施主体の見直し	<input type="radio"/> 対象の見直し	
	○校務システムを活用し、校務の効率化を進める端緒を確立することができました。今後は業務処理方法とシステムとの親和性を整理、改善し、現場での定着を促進し、教員の校務への負担を軽減し、授業展開に一層注力できる環境整備に努めます。 ○ICTを活用した授業への取り組みを促し、理解と意識の向上を図るとともに、求められる知識と技能を向上させるための仕組みを整えていきます。 ○平成25年6月に閣議決定された「日本再興戦略」における「世界最先端IT国家創造宣言」では、「新たな情報通信技術戦略工程表(教育分野の取組)」において2014年度より「1人1台の情報端末による教育の全国的な普及・展開と教育ITシステムの標準化」をしていくこととされ、情報端末などのICTを活用した授業実施の拡充が求められています。今後は、ICTの利活用の範囲を通常科目授業内に拡大できるよう、電子黒板やデジタル教材の整備と規格の平準化を検討していきます。					

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 474

25年度の事業実施状況	(1)主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		通学路標識の取替(委託等)	1,105	組	4,351
		学校安全マップの作成	29,207	枚	853
		スクールゾーン標示板(バリケード)の作成(委託等)	10	基	126
		子ども安全ボランティア傷害保険料の支出			121
	その他(通学路線図の作成)			304	
(2)事業実績(協働、行革の取組があれば記入)	児童の登下校中の安全確保は、保護者にとって関心が高い事柄のひとつです。登下校中の児童が犠牲になる痛ましい交通事故が発生したことを受け、文部科学省、国土交通省、警察庁が連携し、平成24年度に、全国一斉に、緊急合同点検を実施しました。杉並区においても全小学校を点検し、平成25年度においても、杉並土木事務所、3警察署(杉並署、荻窪署、高井戸署)、学校と連携し、毎年数校ずつ計画的に通学路点検を実施しています。				

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	昭和40年代に社会問題化したモータリゼーションによる交通事故の増大により、児童の安全確保のため、通学路の設定・整備や交通規制といった対策を講じてきました。しかし最近では、住宅地の抜け道を走る自動車や、歩道を疾走する自転車の交通マナー低下による危険性も問題化しており、通学路の安全対策が大きな課題となっています。 また、ここ数年は、児童連れ去り等防犯上の安全確保へも通学路の安全対策の視点が広がっているほか、一昨年の震災以降は、災害時の安全確保についても関心が高まっています。
	事業に対する意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	通学路の安全確保だけでなく、災害時や防犯に対する要望も増加しています。これまで以上に警察等をはじめ、交通対策課や危機管理対策課等さらに幅広いセクションとの連携による対応が求められています。 昨年、相次いで発生した登下校中の通学路での交通事故報道を受け、保護者や地域住民から安全確保に対する取り組みについての要望が増えています。
	今後の予測	近年は悪質な自動車に加えて、児童の脇を疾走する自転車の交通マナーの低下によるトラブルが多発しています。また、児童・生徒をターゲットとした変質者の出没も後を絶ちません。登下校中もしくは放課後における、通学路上における様々な安全の確保については、保護者だけでなく、近隣住民からの関心も高まっており、区の関係各課だけでなく、地域住民や管轄の警察とも、これまで以上に連携して、パトロール等の対応を実施していく必要があると考えています。
評価と課題	平成24年度に全校で実施した通学路における緊急合同点検を受け、毎年全校で実施している「学校安全マップ」作成等に活かすことができました。全児童、保護者、地域住民、教育委員会が、危険箇所に関して共通で認識し、今後もその危険箇所を重点的にパトロールするなど安全確保に向けて取り組んでいきたいと考えています。	

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input type="radio"/> 拡 充	<input checked="" type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 縮 小	<input type="radio"/> その他
		II 事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 手段・方法の見直し	<input type="radio"/> 実施主体の見直し	<input type="radio"/> 対象の見直し	
	通学路の安全確保については、交通安全対策に加え、防犯対策、災害時の対策にも視点が広がり、多角的なアプローチによる対応が求められています。平成24年度に実施した緊急合同点検の結果を踏まえ、交通事故や連れ去り等を防止するため、関係各課・機関との調整及び連携強化を図り、安全・安心の通学路実現に取り組んでまいります。平成26年度から、東京都の補助事業である、通学路防犯カメラ整備事業が開始されます。教育委員会としても、従来のパトロール等の取組を補完する上でも、積極的に活用してまいりたいと考えています。					

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 487

25年度の事業実施状況	(1)主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		学校司書に対する報酬・旅費	65	人	135,281
		その他()			0

(2)事業実績
(協働、行革の取組があれば記入)

平成24年度は、緊急雇用創出臨時特例交付金の補助を受け学校司書の一部を雇用し、小・中学校全校に配置しましたが、平成25年度は、全額区の予算により全校配置しました。

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	学校図書館の充実のため、平成21年度から学校司書の配置を開始しました。平成25年度は、平成24年度から引き続き小・中学校全校に学校司書を配置しました。
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	小・中学校全校への学校司書の配置により、学校図書館の活用・整備が図られています。継続した学校司書の配置を児童・生徒、保護者及び学校から求められています。
	今後の予測	学校図書館の機能充実のため、今後も引き続き学校司書の配置が必要です。
評価と課題	学校司書を区立小・中学校全校に配置したことにより、学校図書館の機能充実が図られました。多くの学校で学校図書館の開館時間が増え、休業期間中の開館日も増加しました。また、児童・生徒への年間貸出冊数も配置前と比較し、増えています。今後はより学校司書の配置効果を高めるため、済美教育センターの学校図書館サポートデスクと連携し、研修体制を充実させることにより、学校司書の資質向上を図っていきます。	

改善・見直しの方向 (中長期)	今後の方向性 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input type="radio"/> 拡 充	<input checked="" type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 縮 小	<input type="radio"/> その他
		II 事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 手段・方法の見直し	<input type="radio"/> 実施主体の見直し	<input type="radio"/> 対象の見直し	
	学校図書館の子どもたちの読書習慣を培う「読書センター」及び学習活動を支える「学習・情報センター」としての機能をより充実させるため、学校司書と教員、地域ボランティアが機能的に連携できる組織体制や、済美教育センターの学校図書館サポートデスクと連携し、より充実した研修体制づくりを推進していくことが必要です。					

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 493

25年度の事業実施状況	(1)主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		機械警備業務委託	33	校	17,901
		機械設備保守点検業務委託(全館空調校)	5	校	8,264
		散水設備保守点検業務委託	1	校	6,991
		昇降機保守点検業務委託	8	校	7,085
		その他(設備の保守委託ほか)			
(2)事業実績 (協働、行革の取組があれば記入)	引き続き機械警備や機器の保守点検を実施し、学校の安心安全の強化に努めました。				

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	
	今後の予測	
評価と課題	学校警備職員の退職による機械警備化が進み、専門業者との協働が推進されています。引き続き専門事業者による適切な保守管理を実施し、学校施設の安全安心を確保することが重要であると考えます。	

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input type="radio"/> 拡充	<input type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> その他
		II 事業の方向性	<input type="radio"/> 手段・方法の見直し	<input type="radio"/> 実施主体の見直し	<input type="radio"/> 対象の見直し	

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 500

25年度の事業実施状況	(1)主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		和田小学校給食室改修工事			96,857
		井荻小学校雨水流出抑制対策その他工事			67,521
		高井戸東小学校校舎外壁補修工事			51,035
		富士見丘小学校校舎外壁補修工事			51,711
	その他(桃井第三小学校雨水流出抑制対策工事 ほか)			259,359	
(2)事業実績 (協働、行革の取組があれば記入)	学校における良好な教育環境の維持・向上をはかるため、区の実行計画に基づき、校舎屋上防水工事、校舎外壁補修工事、給食室改修工事、照明設備改修工事等、学校諸施設の整備工事を行いました。今後も改築時期を見極めながら、効果的な改修を行えるよう調整を図り工事を行います。				

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	学校建物の老朽化が進む中、改築を計画的に行う必要がありますが、期間と経費がかかることから、改築時までの改修工事の重要性は大きくなっています。		
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	学校利用者からは、校舎の傷みが進んでおり、内装の汚れが目立つ等の指摘を受けています。また、施設面では、便所改修や校庭整地、バリアフリー化等を求められています。近隣住民からは、周囲の狭あい道路(二項道路)のセットバック、校庭の土埃対策、工事騒音対策等が求められています。		
	今後の予測	今後、建物の耐用年数(およそ50年)を経過する校舎の増加が見込まれます。施設の機能や教育環境の維持・向上を図るためには、計画的に改修を行っていき、中長期を見据えた学校教育施設の改修・改善に取り組む必要があります。		
評価と課題	施設機能の維持保全や教育システムの変化等に対応するため、中長期を見据えた学校教育施設の改修、改善に取り組み、平成25年度においても良好な教育環境の維持に努めました。今後とも、有効な教育環境を確保するとともに、社会情勢の変化や改修・改築における費用対効果等を見据えて取り組みます。			

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input type="radio"/> 拡 充 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 縮 小 <input type="radio"/> その他			
		II 事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 手段・方法の見直し <input type="radio"/> 実施主体の見直し <input type="radio"/> 対象の見直し			
	施設・設備は経年劣化していくため、機能や教育環境の維持・向上を図るには、現在のローテーションで改修を行う必要があります。また、建物の耐用年数(およそ50年)を経過する校舎の増加が見込まれており、改築時期を見極めながら効率的な改修を行う必要があります。多額の費用をかけて改修し、数年後に改築のため取壊す等の無駄を生じさせないよう、新しい学校づくりの検討状況及び杉並区立小中学校老朽改築計画との調整を図りながら、改修計画を構築する必要があります。					

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 501

25年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		工事監理委託			
		改築工事(建築・電気・機械設備・昇降機設備)			2,129,156
		初度調弁(初度消耗品費、初度備品費)			121,636
		仮設校舎賃借			188,370
		その他(代替運動場賃借料、備品搬出委託費、廃棄物処理費 外)			19,897
	(2) 事業実績 (協働、行革の取組があれば記入)	近隣住民等を対象に改築計画の説明会を開催するなど、情報提供や意見・要望の聴取を細やかに 行い、平成26年3月に改築校舎の竣工を迎えました。平成26年度は、仮設校舎解体、外構整備工事を 実施します。			

事業環境の変化	事業開始当初から 現在までの変化	平成26年3月に改築工事が竣工し、平成25年度の卒業式を新しい体育館で行うことが出来ました。
	事業に対する意見 (事業に対する期待・ 要望・苦情など)	解体・建設など一連の工事の実施に伴い、振動・騒音及び工事車両の運行等について、苦情があり ました。 また、既存樹木の取り扱い、植樹についての要望がありました。
	今後の予測	
	評価と課題	施設規模は、9,832.52㎡(学童クラブ、外部倉庫等含む)となり、近年の改築校同様に大規模な施設 となり、既存校との乖離が生じています。このため、今後は、建設コストの抑制と良好な学習環境の創 出とを図りながら、改築校の施設規模を適正化していくことが課題となっています。

改善・見直しの方向 (中長期)	今後の方向性 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	○ 拡 充	○ 現状維持	● 縮 小	○ その他
		II 事業の方向性	● 手段・方法の見直し	○ 実施主体の見直し	○ 対象の見直し	
	高井戸第二小学校の改築事業をもって、耐震改築事業は終了しました。今後は、小中学校の老朽改築にあたって、「杉並 区立小中学校老朽改築計画」に基づき、施設の複合化・多機能化を図るとともに、施設規模の適正化(スリム化)を進めていき ます。					

平成26年度 杉並区事務事業評価表(1)

事務事業名		統合校の施設整備			款	7	項	2	目	4	事業	6	整理番号	502		
担当部課名		教育委員会事務局学校整備課			係名	教育施設計画係		連絡先電話番号	1684		昨年度整理番号	500				
上位施策No・施策名		27 学校教育環境の整備・充実			予算事業区分		投資事業									
事務事業の概要	事業開始		平成	▼	22年度	<input checked="" type="checkbox"/>	実行計画事業目標		5	施策	27	計画事業	1	<input checked="" type="checkbox"/>	主要事業(経営計画書掲載事業)	
	対象		永福南小学校及び永福小学校の児童、教職員及び学校利用者			内部管理		施設維持管理		根拠(1) 学校教育法第5条 等 (2) 地方自治法第180条の2						
	事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)								活動指標名(式)							
	○永福南小学校と永福小学校の統合を実現するための施設整備を行います。 ○統合される新しい学校で児童の教育環境の向上が図られるようにします。								(1) 建設工事進捗率(プール・屋内運動場棟) (2) 改修工事進捗状況(既存校舎)							
活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)								成果指標 ※(代)=適当な指標がない場合の代替指標								
○平成22年度 統合協議会開催、屋内運動場棟改築基本設計・実施設計作成 ○平成23年度 既存体育館・プール解体工事 ○平成23～24年度 屋内運動場棟建設工事 ○平成23～25年度 既存校舎改修工事(夏休み期間のみ)								成果指標名(1) (代)建設工事進捗率(プール・屋内運動場棟) 算定式・指標の説明等 屋内運動場棟の建設工事の進捗状況 成果指標名(2) (代)改修工事進捗率(既存校舎) 算定式・指標の説明等 既存校舎の改修工事の進捗状況								
区分		単位	23年度		24年度		25年度		26年度	計画(目標値)に対する25年度の達成率(%)						
			実績	計画	実績	計画(目標値)	実績	計画								
指標	活動指標(1)		1	%	16.0	100.0	100.0									
	活動指標(2)		2	%				100.0	100.0		100.0					
	成果指標(1)		3	%	16.0	100.0	100.0									
	成果指標(2)		4	%				100.0	100.0		100.0					
総事業費・コスト把握	事業費		5	千円	340,447	771,664	770,728	100,989	87,726	0	25年度予算執行率(%)		86.9			
	(内)投資的経費等		6	千円	340,447	771,664	770,728	100,989	87,726	0	特記事項 ○永福南小学校と永福小学校の「統合校の施設整備」事業は平成25年度で完了。					
	(内)委託費		7	千円	340,416	731,037	731,034	91,508	78,919	0						
	職員数	常勤職員数		8	人	1.00	1.00	1.15	0.50	0.52						0.00
		再任用職員数		9	人	0.00	0.00	0.00	0.10	0.10						0.00
		非常勤職員数		10	人		0.00	0.00	0.00	0.00						0.00
	人件費	(内)常勤職員分		11	千円	8,900	8,700	10,005	4,315	4,488						0
		(内)再任用職員分		12	千円	0	0	0	386	386						0
		(内)非常勤職員分		13	千円		0	0	0	0						0
	総事業費(5+11+12+13)		14	千円	349,347	780,364	780,733	105,690	92,600	0						
	単位あたりコスト((14-6)÷1)		15	円	556,250	87,000	100,050									
	財源	受益者負担分		16	千円	0	0	0	0	0						0
		国からの補助金等		17	千円	23,506	53,814	44,799	0	0						0
		都からの補助金等		18	千円	0	0	0	0	0						0
その他の補助金等		19	千円	0	0	0	0	0	0							
特定財源計(16+17+18+19)		20	千円	23,506	53,814	44,799	0	0	0							
差引:一般財源(14-20)		21	千円	325,841	726,550	735,934	105,690	92,600	0							
受益者負担比率(16÷14)		22	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0								

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 502

25年度の事業実施状況	(1)主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		既存校舎改修工事			77,878
		初度調弁(初度消耗品費、初度備品費)			7,329
		改築校維持管理			1,478
		廃棄物処理委託			1,041
		その他()			0
(2)事業実績 (協働、行革の取組があれば記入)	永福南小学校と永福小学校の学校統合のための施設整備事業として、平成23年度から屋内運動場棟の建設工事を実施し、平成25年4月に開校式を行いました。 また、平成26年度は、既存校舎の改修工事を実施しました。				

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	教育委員会ホームページへの掲載や近隣へのニュース紙配付等による統合計画の情報提供により、住民の事業に対する理解が進みました。		
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	学校敷地にかなり隣接している住宅も多く、そうした住民の一部から、工事に伴う騒音・振動・粉塵等による生活環境の悪化に対する懸念と対策への強い要望があった経緯がありました。		
	今後の予測	今後の統合校の施設整備につきましたは、平成26年2月に策定しました「杉並区立小中学校新しい学校づくり推進基本方針」に基づき進めていきます。		
評価と課題	屋内運動場棟の建設工事及び、既存校舎の改修工事を実施したことにより、統合校としての教育環境の整備、充実を図ることが出来ました。			

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input type="radio"/> 拡 充	<input type="radio"/> 現 状 維 持	<input type="radio"/> 縮 小	<input checked="" type="radio"/> その他
		II 事業の方向性	<input type="radio"/> 手段・方法の見直し	<input type="radio"/> 実施主体の見直し	<input checked="" type="radio"/> 対象の見直し	

平成26年度 杉並区事務事業評価表(1)

事務事業名		小学校空調設備整備			款	7	項	2	目	4	事業	7	整理番号	503		
担当部課名		教育委員会学校整備課			係名	教育施設整備係		連絡先電話番号		1682		昨年度整理番号				
上位施策No・施策名		27 学校教育環境の整備・充実			予算事業区分				新規事業							
事務事業の概要	事業開始		平成	▼	22	年度	<input type="checkbox"/> 実行計画事業目標		施策	計画事業		<input type="checkbox"/> 主要事業(経営計画書掲載事業)				
	対象		区立小学校			内部管理		施設維持管理		根拠法令等		(1) 学校教育法第5条 (2) 地方自治法第180条の2				
	事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)		○教育環境改善のために教室に空調設備を整備します。			活動指標名(式)		(1) 空調設備設置工事校数 (2) 空調設備整備設計校数								
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)		○区立小学校の教室に空調設備を整備する。			成果指標		※(代)=適当な指標がない場合の代替指標 成果指標名(1) 空調設備設置率(%) 平成23年度は普通教室・平成25年度以降は理 算定式・指標の説明等 空 調設備設置小学校数/小学校数 平成23年度は普通教室・平成25年度以降は理 成果指標名(2) 科 算定式・指標の説明等 室								
区分		単位	23年度		24年度		25年度		26年度		計画(目標値)に対する25年度の達成率(%)					
			実績	計画	実績	計画(目標値)	実績	計画								
指標	活動指標(1)		1	校	29			0	0	32						
	活動指標(2)		2	校	0			32	32	0	100.0					
	成果指標(1)		3	%	100			19	19	100	100.0					
	成果指標(2)		4													
総事業費・コスト把握	事業費		5	千円	1,077,422			5,500	4,715	111,000	25年度予算執行率(%) 85.7					
	(内)投資的経費等		6	千円	1,077,422			5,500	4,715	111,000	特記事項					
	(内)委託費		7	千円	1,077,422			5,500	4,715	111,000						
	職員数	常勤職員数		8	人	0.20			0.00	0.05	0.10					
		再任用職員数		9	人	0.00			0.00	0.00	0.00					
		非常勤職員数		10	人				0.00	0.00	0.00					
	人件費	(内)常勤職員分		11	千円	1,780	0	0	0	432	863					
		(内)再任用職員分		12	千円	0	0	0	0	0	0					
		(内)非常勤職員分		13	千円			0	0	0	0	0				
	総事業費(5+11+12+13)		14	千円	1,079,202	0	0	5,500	5,147	111,863						
	単位あたりコスト((14-6)÷1)		15	円	61,379					26,969						
	財源	受益者負担分		16	千円	0			0	0	0					
		国からの補助金等		17	千円	1,864			0	0	0					
		都からの補助金等		18	千円	0			0	0	0					
その他の補助金等		19	千円	0			0	0	0							
特定財源計(16+17+18+19)		20	千円	1,864	0	0	0	0	0							
差引:一般財源(14-20)		21	千円	1,077,338	0	0	5,500	5,147	111,863							
受益者負担比率(16÷14)		22	%	0.0			0.0	0.0	0.0							

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 503

25年度の事業実施状況	内容	規模	単位		事業費(千円)
(1)主な取組	小学校理科室空調設備整備設計委託				4,715
	その他()				0
(2)事業実績 (協働、行革の取組があれば記入)	小学校理科室空調設備整備の設計を行いました。				

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	教育環境を改善し、児童が学習効果を十分発揮できるように、平成22・23年度に普通教室に空調設備を設置しました。更に学習環境を改善し理科教育を充実させるため、平成26年度には理科室に空調設備を設置します。
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	保護者などからは、学習環境改善のため、早急に空調設備の整備が求められています。
	今後の予測	他の特別教室についても、教育環境改善等により、空調設備整備が求められていくと予想されます。
評価と課題	普通教室と一部の特別教室に空調設備を設置し、学習環境の改善が図られました。空調設備未設置の特別教室の整備についての対応が求められます。	

改善・見直しの方向 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input checked="" type="radio"/> 拡 充	<input type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 縮 小	<input type="radio"/> その他
	II 事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 手段・方法の見直し	<input type="radio"/> 実施主体の見直し	<input type="radio"/> 対象の見直し	
改善・見直しの方向 (中長期)	空調設備未設置の特別教室について、空調設備整備を検討します。				

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 504

25年度の事業実施状況	(1)主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		改築改修工事(建築・電気・機械設備・昇降機設備・解体工事等)			
		工事監理委託			11,246
		備品搬出委託			3,504
		廃棄物処理委託			1,383
		その他(初度調弁、改築校維持管理)			2,695
	(2)事業実績 (協働、行革の取組があれば記入)	区内で初めての施設一体型の小中一貫教育校の改築工事に着手しました。平成25年度は、和泉中学校の校庭を活用して小学校棟の建設工事に着手するとともに、和泉小学校のプールの解体、平成26年度、和泉中学校が仮移転するための新泉小学校の改修工事を行いました。			

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	学校適正配置検討対象校である新泉小と近接する和泉小・中の3校は、数年前から独自に将来の小中一貫教育を目指した取り組みを進めてきました。その後、学校関係者に3校の統合及び小中一貫教育を行うことの意義や内容等についての理解が進んだ結果、平成22年度に設置計画を策定し、設置協議会による具体的な計画検討を進め、区内初の施設一体型の小中一貫校建設工事に着手しました。
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	一体型施設を活用して小中一貫教育を実施するメリットをより明確にしながら計画を具体化すること、小学校部門と中学校部門との連携強化はもとより、学校関係者と地域住民との連帯意識の更なる向上を図ること、小中一貫教育の理念をよりよい形で具現化できるような施設の整備を行うことへの要望などが出されました。 また、工事にあたっては、一部近隣住民から騒音、振動等についての苦情等がありました。
	今後の予測	平成26年2月に策定しました「杉並区立小中学校新しい学校づくり推進基本方針」に基づき進めていきます。
	評価と課題	暫定的に一年間、和泉中学校の生徒を新泉小学校の既存校舎で受け入れるため、新泉小学校の環境整備工事を実施しました。これにより、和泉中学校の仮設校舎建設が不要となるとともに、同一施設で小学校の児童と中学校の生徒が、安全に学校生活を送ることが出来るようになりました。また、小中一貫校建築工事期間中(平成25・26年度)の代替運動場として、日本大学鶴ヶ丘高等学校のグラウンドや和田堀公園陸上競技場を賃借するとともに、旧永福南小学校を活用してクラブ活動等に支障が生じないよう活用していきます。

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input type="radio"/> 拡 充	<input type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 縮 小	<input checked="" type="radio"/> その他
		II 事業の方向性	<input type="radio"/> 手段・方法の見直し	<input type="radio"/> 実施主体の見直し	<input checked="" type="radio"/> 対象の見直し	

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 507

25年度の事業実施状況	(1)主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		機械警備業務委託	21	校	13,474
		機械設備保守点検業務委託(全館空調校)	3	校	5,964
		昇降機保守点検業務委託	9	校	7,809
		その他(設備の保守委託ほか)			10,401
(2)事業実績 (協働、行革の取組があれば記入)	引き続き機械警備や機器の保守点検を実施し、学校の安全安心の強化に努めました。				

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	
	今後の予測	
評価と課題	学校警備職員の退職による機械警備化が進み、専門業者との協働が推進されています。引き続き専門事業者による適切な保守管理を実施し、学校施設の安全安心を確保することが重要であると考えます。	

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input type="radio"/> 拡充	<input type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> その他
		II 事業の方向性	<input type="radio"/> 手段・方法の見直し	<input type="radio"/> 実施主体の見直し	<input type="radio"/> 対象の見直し	

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 513

25年度の事業実施状況	(1)主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		宮前中学校校舎外壁補修工事			65,566
		向陽中学校便所・排水管改修工事			35,805
		杉森中学校受変電設備取替工事			31,500
		荻窪中学校校舎屋上防水改修工事			25,830
		その他(東原中学校照明設備改修工事 ほか)			127,765
(2)事業実績 (協働、行革の取組があれば記入)	学校における良好な教育環境の維持・向上をはかるため、区の実行計画に基づき、校舎屋上防水工事、校舎外壁補修工事、受変電設備取替工事、照明設備改修工事等、学校諸施設の整備工事を行いました。今後も改築時期を見極めながら、効果的な改修を行えるよう調整を図り工事を行います。				

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	学校建物の老朽化が進む中、改築を計画的に行う必要がありますが、期間と経費がかかることから、改築時までの改修工事の重要性は大きくなっています。		
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	学校利用者からは、校舎の傷みが進んでおり、内装の汚れが目立つ等の指摘を受けています。また、施設面では、便所改修や校庭整地、バリアフリー化等を求められています。近隣住民からは、周囲の狭あい道路(二項道路)のセットバック、校庭の土埃対策、工事騒音対策等が求められています。		
	今後の予測	今後、建物の耐用年数(およそ50年)を経過する校舎の増加が見込まれます。施設の機能や教育環境の維持・向上を図るためには、計画的に改修を行っていき、中長期を見据えた学校教育施設の改修・改善に取り組む必要があります。		
評価と課題	施設機能の維持保全や教育システムの変化等に対応するため、中長期を見据えた学校教育施設の改修、改善に取り組み、平成25年度においても良好な教育環境の維持に努めました。今後とも、有効な教育環境を確保するとともに、社会情勢の変化や改修・改築における費用対効果等を見据えて取り組みます。			

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	○ 拡 充 ● 現状維持 ○ 縮 小 ○ その他			
		II 事業の方向性	● 手段・方法の見直し	○ 実施主体の見直し	○ 対象の見直し	
	施設・設備は経年劣化していくため、機能や教育環境の維持・向上を図るには、現在のローテーションで改修を行う必要があります。また、建物の耐用年数(およそ50年)を経過する校舎の増加が見込まれており、改築時期を見極めながら効率的な改修を行う必要があります。多額の費用をかけて改修し、数年後に改築のため取壊す等の無駄を生じさせないよう、新しい学校づくりの検討状況及び杉並区立小中学校老朽改築計画との調整を図りながら、改修計画を構築する必要があります。					

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 514

25年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内 容	規 模	単 位	事業費(千円)
		改築改修工事(建築・電気・機械設備・昇降機設備・解体工事等)			
		工事監理委託			11,246
		備品搬出委託			3,561
		廃棄物処理委託			1,643
		その他(初度調弁、改築校維持管理)			2,895
	(2) 事業実績 (協働、行革の取組があれば記入)	区内で初めての施設一体型の小中一貫教育校の改築工事に着手しました。平成25年度は、和泉中学校の校庭を活用して小学校棟の建設工事に着手するとともに、和泉小学校のプールの解体、平成26年度、和泉中学校が仮移転するための新泉小学校の改修工事を行いました。			

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	学校適正配置検討対象校である新泉小と近接する和泉小・中の3校は、数年前から独自に将来の小中一貫教育を目指した取り組みを進めてきました。その後、学校関係者に3校の統合及び小中一貫教育を行うことの意義や内容等についての理解が進んだ結果、平成22年度に設置計画を策定し、設置協議会による具体的な計画検討を進め、区内初の施設一体型の小中一貫校建設工事に着手しました。			
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	一体型施設を活用して小中一貫教育を実施するメリットをより明確にしながら計画を具体化すること、小学校部門と中学校部門との連携強化はもとより、学校関係者と地域住民との連帯意識の更なる向上を図ること、小中一貫教育の理念をよりよい形で具現化できるような施設の整備を行うことへの要望などが出されました。 また、工事にあたっては、一部近隣住民から騒音、振動等についての苦情等がありました。			
	今後の予測	平成26年2月に策定しました「杉並区立小中学校新しい学校づくり推進基本方針」に基づき進めていきます。			
	評価と課題	暫定的に一年間、和泉中学校の生徒を新泉小学校の既存校舎で受け入れるため、新泉小学校の環境整備工事を実施しました。これにより、和泉中学校の仮設校舎建設が不要となるとともに、同一施設で小学校の児童と中学校の生徒が、安全に学校生活を送ることが出来るようになりました。また、小中一貫校建築工事期間中(平成25・26年度)の代替運動場として、日本大学鶴ヶ丘高等学校のグラウンドや和田堀公園陸上競技場を賃借するとともに、旧永福南小学校を活用してクラブ活動等に支障が生じないよう活用していきます。			

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input type="radio"/> 拡 充	<input type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 縮 小	<input checked="" type="radio"/> その他
		II 事業の方向性	<input type="radio"/> 手段・方法の見直し	<input type="radio"/> 実施主体の見直し	<input checked="" type="radio"/> 対象の見直し	